

津山 だいすき!

ごんご
GONGO CLUB
クラブ

わたしも
ごんごクラブ

衆楽園の池の水がきれい
にならないか

衆楽園の池の中が濁っていてコイの姿が見えません。コイが見えるぐらいに池の中の掃除ができませんか? (林田・女性)



都市計画課 32・2097

した水を池に取り入れています。これにより、水はかなり浄化されていますが、池の水量に対して取水する量が少ないときや、水温が上がる時期などにはどうしても濁りが発生します。今後とも濁りを抑えるよう水の管理を行っていきたく考えています。

市役所の時間延長窓口について教えて!

障害を持つ人が仕事のあと市役所に出かけて住民票を取りに行くことになり、確か5時以降でも可能だったのではと思い、ホームページを見ました。しかし、いくら探しても開庁時間を見当たりません。些細なことですが、何とかありませんか? (メールでのお

便り)

市役所では、平日午後5時15分まで業務を行っています。が、毎週金曜日は窓口を午後7時まで延長しています。ホームページのトップページにも時間延長窓口について表示しました。
市長公室 32・2029

未来をひっばる 津山人

身近な再発見でまちを元気に

津山・城西まるごと博物館フェア
企画委員長 廣本 慎太郎さん



城西地域の出雲街道をハイカラな衣装の人や人力車が行き交い、大正ロマンの雰囲気漂う「城西まるごと博物館フェア」。今回は、その中心的な役割を担って

いる廣本慎太郎さん(安岡町)にお話をうかがいました。今年で11年目になりますね。市内外から大勢の人が訪れ、3世代通じて楽しめるイベントになりました。西小学校の協力で、たくさんの子どもたちの姿も見られます。美作大学の学生も参加し「古いたたずまいの中にモダンな建物があつておもしろい」と驚いています。何より地元が元気になってきました。このイベントのきっかけは? まだ鉄道が津山口駅までしか



わたしのおすすめ

3作目の新ミュージカルに意欲



津山《風と光と心の劇場》実行委員会
芸術文化監督 仙道 作三さん
作曲家・演出家

勝北地域を中心に行っている市民ミュージカル『黒媛物語』『ジャパニーズ「オズの魔法使い」』に次ぐ3作目の題材とスタッフを募集しています。めざすのは4年後に岡山県で行われる「国民文化祭」。日本に誇れるミュージカルを作りたいと考えています。新作の制作は合併後初。広域になった津山市で年齢も分野も幅広い豊富な人材に活躍してもらいたいです。これまでにないスケールで、岡山市や倉敷市に負けないものを作りましょう。裏方の仕事までが市民による手作りなのは私たちの誇りです。また常にプロのレベルを要求

していますが、舞台1回ごとにレベルは着実に上がっていますよ。文化芸術は人の心を育てます。現在起きている地球環境や青少年の問題なども、突き詰めて考えれば心の問題。この活動を通じて清らかな心が育まれていくことを願っています。



ミュージカルスタッフも同時募集

新作ミュージカル題材 募集

条件 津山市が関係する内容
応募方法 本文に題名とあらすじを400~1,200字で書き(ワープロも可)、表紙に住所、名前、年齢、職業、電話番号を明記のうえ送付
※原稿は返却しません。採用にあたっては感謝状を送付。著作権は同実行委員会に帰属
締め切り 11月30日(木)
応募・問い合わせ先 〒708-1205津山市新野東584 津山《風と光と心の劇場》実行委員会 36・7036

着物コンテスト 出場者募集中!

津山・城西まるごと博物館フェア2006

とき 10月1日(日) 午前10時~午後4時
ところ 城西地域一帯(主会場は作州民芸館)
内容 アートクラフト展、城西楽市、昔懐かし屋台村、人力車、ミルクホール、ちびっこステージ、わんぱく体験広場など
駐車場 西小学校グラウンド
問い合わせ先 建築住宅課 32・2090



まちの中心部と駅をつなぐ玄関口としてにぎわっていました。建具や釣具、のこぎりなど職人の店が軒を連ね、また旧土居銀行(現・作州民芸館)や翁橋などモダンな趣の建物が現れたのもこのころ。そんな時代を振り返り再発見してもらおうと始めました。私自身、この地に生まれ育ち、幼いころからこのまちが好きでしたから、元気づけたいという思いもありました。『まるごと博物館』の考えは? 発見してもらうためには発表する場が必要です。職人技を見せるのは屋内でもできるのですが、建物は無理。ならばまち全体を『まるごと』発表の場にしよう、と思いついたわけです。全国の職人が集まっていますね。職人や手作り工芸への意識を高めることは、このまちへの意識を高め、このまちの価値を高めることにつながります。かつて職人のまちであったことを再発見してもらいたいですね。今後の課題や目標は? 地域を広げていきたいです。ほかの市街地と同様、この地域でも空洞化が進んでいます。身近なものへの再発見を通じて、子どもたちが「えーとこじやなあ」と思っ住み続けられるまちをつくっていきたくです。廣本さんにとっての一番『えーとこ』は? かつて遊泳場だった安岡町にある吉井川の河原。子どもころ魚を探ったり淵に潜る競争をして遊びました。今ではそこで飲むビールが最高ですよ。川遊びの話では、すっかり童心に返った表情に。この地域への思いの強さが伝わってきました。